１４３　バロック絵画におけるカラヴァッジョの役割

２０２５

真鍋友範

１　再評価が必要

カラヴァッジョが、バロック絵画の絵画における開拓者出ることは、既に知られている。

ただし、その理由は、光と陰の明暗効果を生かしたキアロスクーロの表現技術であり、実際のモデルを使用するリアリズム写実表現にあるとされてきた。

しかし、これらの定義は、カラヴァッジョを正確に定義づけているものではない。

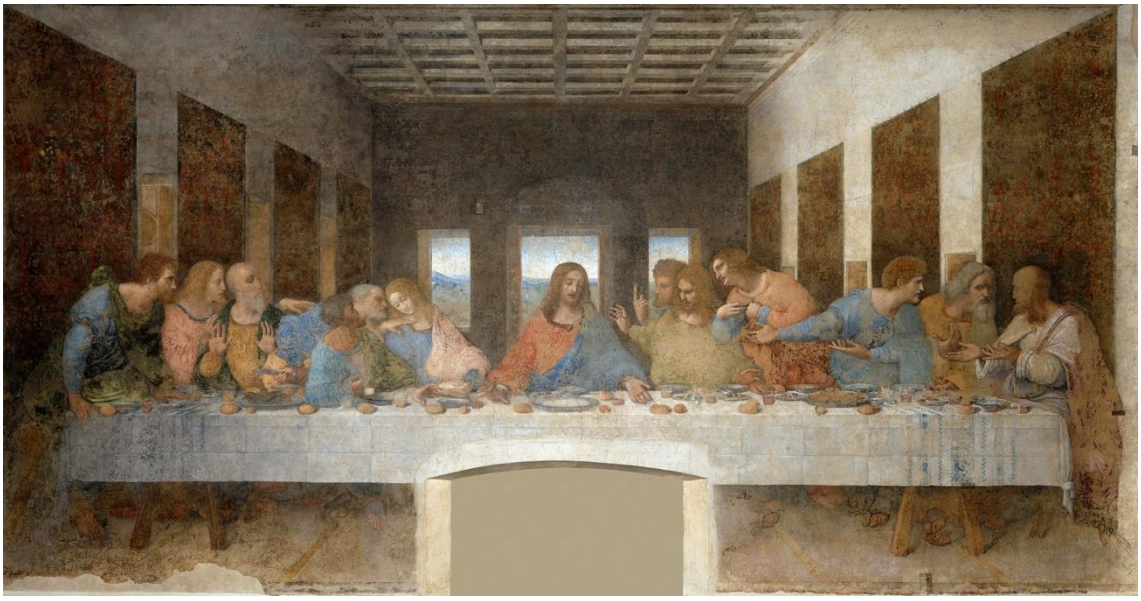
何故ならば、カラヴァッジョ絵画の本質は、もっと深い部分にあるからだ。

その深部に秘められた真実とは、【段階的動画表現】だなのだ。

実は動画表現に最初に挑戦した元祖画家とは、レオナルド・ダ・ヴィンチだ。

彼は、有名な作品《最後の晩餐》に於いて、イエスが語った内容に対する周囲の弟子いている達の反応を見事に並行的動画的に描きこんでいる。決してイエスが語った瞬間その時の情景ではないのだ。

この場合、【時間の帯】が存在している。



観衆は、この情景の弟子の行動を一つ一つ解析して味わうのだが、

ここで【動画が成立する。】

　ただし、《最後の晩餐》での短時間の動画に於いて、物語の進行順序は、読み取る慣習によって、様々な順序での物語進行となる。

　しかし、カラヴァッジョの描いた《聖マタイの召命》では、物語の進行順序が明らかなのだ。

　どういう意味か。具体的に説明しよう。

　聖マタイの召命では、最初に髭男が 2 段階の質問を行う。イエスに対し、「お探しの人は、私ですか、それとも、隣のメガネの収税史ですか。」

　ただし、前半の質問部分は描かれていない。描かれているのは、後半の「それとも、隣の収税人ですか」だけだ。

　観衆は、立てられたままの親指を見逃さないで、前半の部分を読み取る必要がある。

　二者択一質問を投げかけられたイエスは、左手の手のひらを広げて見せ、質問に答える意思を、髭男に伝え、続けて、自身の立ち位置を、メガネの収税史の顔が見える位置に、右足を左に踏み出し、右手を大きく回して、【あなた向こう側の人】であることを伝えたのだ。

　【決して指差していない。】何故なら、手首より先には、力が込め

られていないからだ。

　ここまでの全物語を整理すると、【2 段階髭男質問に始まり、イエスの 3 段階の回答表現である】ことに気付くであろう。

　カラヴァッジョの果たした絵画史上での役割とは、レオナルド・、ダ・ヴィンチの描いたランダムな順序のゆるい動画表現から、物語の進行順に読み取る正確な段階的動画表現に到達した点にある。

　勿論、この表現を裏から支えているのは、写実的リアリズム表現であることは、確かだ。

　キアロスクーロ表現も、勿論ジョルジョーネや、レオナルド・ダ・ヴィンチの表現の継承であるが、これは、別に改めて述べたい。